※文字の大きさは MS ゴシック ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No.

【様式２】

エントリー名：那覇市立城岳小学校

学校名：那覇市立城岳小学校

活動名：子供と共に学びを創る
「城岳小学校学びの相似形」の構築

解決すべき課題：Agency が発揮され well-being を目指す「観」の転換

「子供を主語に」って学校教育で実現できるのか

「子供を主語にする」など「観」の転換はいいが、
子供にすべてを委ねていいのか

「不確実な時代」を受け入れ、自分らしい学びを

VUCA な時代に正解が一つではない学びとは

自己肯定感の高さなど活かした学びとは

誰かのために行動したり、ボランティア活動など
「利他の心」がある子供たちに合った学び方とは

well-being に向けて Agwncy を発揮し、人生を歩む芯をもつ者へ

目標・方針：「子供と共に創る学び」とは

子供も教師も Agency が発揮しよりよい学校を創る環境づくりの推進

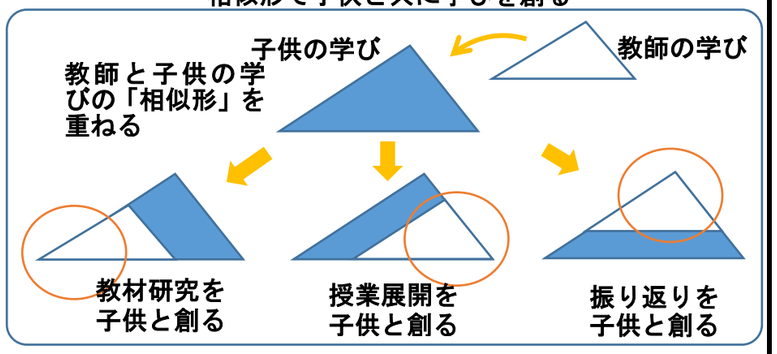
Well-being に向け、教師も子供も「学びのプロセス」において変革・責任・自分事・参画の姿が見られるような学びの環境を整える。

子供の学びと教師の学びは「相似形」

「子供と共に学びを創る」ことは可能なのかという教師の「問い」を対話的に共有し、学びとう営みを教師だけ、子供だけで創るのではなく、お互いの立場にとらわれない姿勢で学びを創る「観」を大切な理念とする。

「対話」で教師と子供の学びの「相似形」を重ねて城岳小の学びのスタイルを確立

相似形で子供と共に学びを創る



活動内容：　城岳らしい「学びの相似形」の充実

教科サークル活動

教師自身の「得意」を活かし、自分がチャレンジして伸ばしたい教科指導を同好会の仲間が集まるような感覚で協働的に研究をする。所属学年だけで研究推進するのではなく、教科サークルで学んだことを学年に持ち込み、学年で「やってみよう」と実践し、実践したことを教科サークルでも振り返ることで、「子供と共に創る学び」を追究する教科指導を推進する。

魅力ある学校づくり

「子供と共に学びを創る」ことを学校文化として持続可能な学びとするため、学校のいい授業を他の教師が参観することはもちろんだが、子供もいっしょに授業参観することで、「いい学び方」の具体を教師と子供で共有する。

じょうがくタイム

週時程に「じょうがくタイム」を毎週金曜日の 6 校時に設定することで、教科の学びや学校教示、委員会活動や係活動など、取組の「プロセス」を自ら省察しながら、自覚的に学ぶ習慣を身につける。特に、学校が定める身につけたい資質・能力（じ…自分らしく、よ…よく考える、う…美しい心、が…学習をつなぐ、く…クリエイティブ）の観点から振り返り、新たな問いを生んだり、メタ認知する。また、授業研究会の際は、5 校時に教科の授業したあと 6 校時に子供と教師で授業の振り返り（リフレクション）をする。

取組の過程：「まずはやってみよう」から始める

教科サークル活動で「相似形」な学びを創る

「子供と共に創る学び」について、協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実を目指し、学びの「相似形」を構築する。子供がチームをつくって先生役となり教師と共に授業を行う。児童は、教材研究を家庭学習で行い、学校では教師と更に教材研究を重ねる。子供と教師で協働して授業を行うことで、子供の視点と教師の視点が重なり合い、より子供自身の「どのように学びたいか」に寄り添う。また、先生役子供の授業の仕方は、普段の受けている授業が鏡となっているので子供が授業をすることで、教師自身の授業改善にもつながる。

子供の教材研究ノート

子供が先生役

子供が先生役

子供と教師のリフレクション

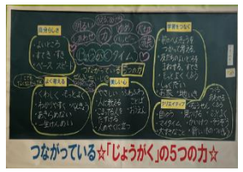
魅力ある学校づくり

子供が先生となる学びを教師と子供で、「共に学びを創る」とはどのような学びなのかについて、実際に異学年間で授業参観を行い、授業後に子供・教師と対話しながら、「共に学びを創る」のことの意義などを子供同士で共有している。教師と子供で学びを創ることを城岳小学校の文化として、子供自身が受け継ぎ、学校全体で「相似形」を創り上げていくことで、児童にも教師にも魅力ある学校となる。

3 年生の授業を先生と子供が参観

じょうがくタイム

「自立した学習者」を目指し、「見通し・チャレンジ・振り返る」サイクルで、課題発見解決のプロセスの充実を図るため、週時程上に１単位時間を設定し、子供がメタ認知を図ったり、見通しを立てたりし、学校が育成を目指す資質・能力（じょうがく）がどのように働いたか、また、働かせたいかについて省察する。



子供と目指す資質・能力を共有

また、「相似形」を意識した授業研究会として、授業研究後のリフレクションを子供たちと行う。学習者の視点と授業者の視点から学びを振り返ることで、子供たちにとっては、授業での学びをメタ認知、教師にとっては、教科の見方・考え方がどのように定着したかを見取ることができる。

活動の成果：　子供も教師も Agency を発揮した学びへ駆け出す。

当初は、「何やればいいですか」と子供も教師も誰かに伺って実行する事が「主体性」があると捉えがちだった。「あなたは何をやってみたいのかな」と問い返すことで、「私は…」と「これをやってみたい」「これにチャレンジしたい」「このように学びたい」と「〇〇したい」と自分を主語に語れる子供と教師となった。「まずはやってみよう」が合い言葉となり、「実現するためには何が大切かな」と協働できる「城岳小学校学びの相似形」を究めようとする子供と教師となった。